

第3回 第2期西区地域福祉保健計画策定委員会 議事録

開催日時	平成21年6月29日（月）午後1時30分～3時45分
会 場	西区役所3階 研究室
出席委員	9人（欠席 1人）
事務局	地域ケアプラザ、西区社会福祉協議会、西区役所
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 前回までの確認【資料1】</p> <p>第1回策定委員会での検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期計画策定までのスケジュール、第1期計画の推進状況の確認。 ・ 第2期計画の基本的な考え方（第1期計画の継承、地区別計画の策定、区社協計画との一体化、6か年の計画とすること）、策定の進め方（策定委員会の開催、「地区別計画策定にあたり、懇談会メンバーの意見を反映すること）を検討した。 <p>委員会として、区全域計画においては障害者など支援が必要な人については、地区単位だけでなく、区全体での取組みが必要なこと、団体の意見も反映したものを基盤にすることを確認し、第2期計画の基本的な考え方として、策定作業をすすめていくこととした。</p> <p>第2回策定委員会での検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区計画（区全域計画、地区別計画）と区社会福祉協議会と市計画の関係性を確認。 ・ 第1期計画の評価と第2期計画の評価方法について検討。 <p>福祉保健推進の目標値について、第2期計画では区民アンケートや団体ヒアリングを踏まえ、重点的に取り組むべき項目を定めること、重点的に取り組む項目について第2期計画の最終年度（平成27年度）の具体的な数値を定めていく方向性を確認した。</p> <p>個人の振り返りである「区民アンケート」について、第2期計画では、よりわかりやすく、回答しやすくなるよう見直しをしていくことを確認した。区民アンケートについては、平成21年度実施分では2,500人に送付し、1,121人より回答をいただき、現在集計中。回答率44.8%。（平成19年度実施 回答率37.7%）</p> <p>団体・行政の振り返りをする「振り返りシート」については、目標ごとに1枚程度とし、団体が活動をより広く展開するきっかけとしたり、他の団体と連携するきっかけとなるよう活用しやすいものに工夫していくことを確認した。</p> <p>3 第1期計画の見直しについて</p> <p style="text-align: center;">【資料2 横浜市市民生活白書（抜粋）、資料3 第2期計画素案（案）】</p> <p>【事務局説明】</p> <p>資料2、資料3により近年の横浜市の区民意識や社会情勢の変化について説明。</p> <p>【各委員より日頃の活動で感じている5か年の変化についての意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブへの加入者が減ってきている。65歳ではまだ、高齢者という意識を持つ人が少ない。地域によっては、できるだけ早い時期に老人クラブに入ろうと考えているところもあり、年齢層も柔軟に、皆さんが楽しめる形になるとよい。

- ・ 高齢者のみ世帯も多くなり、老老介護が進んでいる。
- ・ 町内会の加入率が西区では市平均レベル（78.3%）で、今後も未加入者が増えると思われる。町内会が衰退していく原因として、後継者がいないこと。行政の仕事を町内会で受けているが、現在でも引き受けるのが難しくなっている。町内会の担い手不足は課題。
- ・ 時代も変わり、地域活動の担い手がいらない。次の担い手を育てることに力を注ぐと考えている町内もある。
- ・ 各団体など、担い手はいても、それぞれの活動が点でつながっていない。担い手のユニットをつなげていき、地域をネットワーク化していくことが必要。
- ・ 団塊の世代が地域の担い手となることを期待されているが、地域に戻れる経済環境となっていない。次代の担い手となるのは15年くらい先。時間ができたから地域に、仕事をリタイアしたからではなく、結婚、子どもの誕生などをきっかけに地域に関っていくことが必要。就学前、学校入学、大学生など地域の中で地域性を成長させていく「地域っ子を育てること」が大切。
- ・ 以前は40歳からの健康診断など住民健診が盛んで、地域で横のつながりがあった。役員などをやったことのある人は他の活動への理解がある人が多い。防災などに対しても、地域の連携があったが、今は役員など同じ人しか出てこない傾向がある。自分の年齢にあった地域活動をし、地域で健康に過ごすことが大切。
- ・ 地域の活動はボランティア。若い世代の担い手がいらない。子どもができる地域と関係ができるが、子どもが育ってしまうと地域との関りを持たなくなってしまう。
後継者が育っていない町内会はどうなるのか。
- ・ 町内会に元気がなくなると、老人会など他の組織もうまくいかなくなる。
- ・ 地域への関心が薄くなっている。地域のつながりがなくても生活はできるという傾向が強くなっている。
- ・ 民生委員をはじめ、各団体の役員を選ぶのに際し、担い手不足に大変苦労している。
- ・ 団塊の世代が地域活動にもっと出てくるかと思ったが、予想より少ない。ボランティア募集しても、人が集まらず、技術的なものや専門的な講座などでは比較的集まってくる。
- ・ 障害者に対する福祉サービスや一時ケアなどは充実してきた。その反面、地域の親どうしの支えあいは希薄になってきた。学校卒業後の行き場がない、障害のある人たちの楽しみや居場所づくりなどへの声が高まっている。
- ・ 現代は子どもが自立し、大人になるのに時間がかかる時代になってきた。次のステージになかなか移行できない若者が増えている。若い人たちは個、自分が楽しくないと参加しない傾向が強い。
- ・ 定年後の人たちも自分の今後について模索している。地域の中にどうつなげていくかが課題。
- ・ 親の介護などで地域の活動に参加できない人いる。
- ・ これだけ世の中の安全が不安定になると、学校も障害児を一人で通学させられない。いろいろな経験が阻害される要素が地域の中にある。
- ・ 離婚が増加し、ひとり親家庭を支援するしくみづくりが必要
- ・ 障害課題をもった方々に対して、制度の整備は進んだが、自分の願う生き方をする道具に過ぎない。地域とのつながりということで考えれば、学齢の特別支援に

通っている子どもたちは週のうち何回か地域校に通い、地域生活を子どもの頃から作っていく必要がある。

- ・ 地域のつながりが薄くなっていることが大きな課題。町内会の組織率も大切な要素だが、地域の人たちの出会いは参加してくれるかどうか。参加率を地域の様々な活動で高めていくことで、つながりができる。参加方法は時間、知恵、お金、力などいろいろな形がある。
- ・ いろいろな団体があるが、町内会を通してつながっている。地域が崩れると区民生活が単発になり、単独になってしまう。
- ・ 若い世代の孤立を防ぎ、地域とつながりをつくるために子育て支援をしている。支援者が地域との橋渡し役を担っている。小さい頃から地域とつながっている子は大きくなって町内活動に参加しやすい。子ども会とPTAはつながっており、地域の子どもたちを育てることを心がけている。
- ・ 地域福祉保健計画では地域を考え、盛り上げることを考えて策定していく必要がある。
- ・ PTAでの大きな課題となっているのは横浜市を4分割し、西区は東部、富士見台と岩井原は西部となる構想。両校は長年西区を活動の中心としており、小中合わせて14校で今後のプランを検討してきたので、今後の動向に不安を感じている。PTAで何か活動してきた人は町内会の活動も引き受けてくれる可能性が高い。町内の方で声をかけていただければと思う。地域がなければ、学校も家庭も考えられないのは皆分かっている。参加の仕方が難しい。

→第1期計画を見直して第2期計画策定にあたり、委員の意見、区民アンケート、団体ヒアリングの結果を反映させていくことと、6つの基本目標について、振り返りをした上で継承していく方向性を確認した。

【振り返りシートへの意見】

- ・ 第1期計画推進の5年間、振り返りシートを毎年行ってきたので、シートを軸として意見交換したい。
 - ・ 団体の5年間の変化を話し合い、今後の方向性を整理するために評価軸が必要。
- 団体・行政の5年間の振り返りを行う「振り返りシート」について委員より意見があり、次回の策定委員会で、検討していくこととなった。

4 第2期計画の素案について【資料3】

【事務局説明】

第1期計画では、区全域計画について、基本目標、小目標、福祉保健推進の目標値が定められているが、第2期計画の区全域計画においても計画の連続性を持たせるため同じ構成立てにする。また、第1期の評価を踏まえ、小目標の中で重点を定めていきたいと考えている。

福祉保健推進の目標値について、小目標で重点と定めたものに対応する数値目標について、第2期計画推進最終年（平成27年度）に目指す具体的な数値目標を新たに設定したい。

区民アンケートや団体ヒアリングの結果を踏まえ、この構成立てで次回以降検討いただきたい。

【質疑・意見】

- ・ 第1期の取組み状況を最後にもってきて、これから取組む第2期を最初にもってくる構成立ては順番がどうか。最初に第1期の振り返りをして、第2期という構

成り立つ方が分かりやすい。

(事務局)

第1期計画を先に掲載する案もあったが、第2期で新しいものを策定するので、より広く知っていただくために第2期を先にした。今後どういう順番にするのか委員の意見をいただきたい。

- ・ 作業過程としては、ご意見のとおり、第1期の振り返りをして、課題を抽出する。整理をして第2期の具体的な課題、検証をする。まとめる際は第2期で計画を示し、後半で第1期での推進状況を掲載する構成立て。
- ・ 基本理念の「地域の中で定年はありません」という文言は地域活動に終わりはない、地域住民として亡くなった後まで、思い出に語られるまで、地域の一員として最後まで看取られていく。歩み続けなければいけないとか、定年がないというのはそういう意味か。

(事務局)

基本理念について、表現上の変更など今後の委員会で検討いただきたい。

- ・ 地区懇談会はどうなるのか。

(事務局)

策定のプロセスで9月の策定委員会には地区別懇談会の中から地域の課題を整理し、計画に盛り込みたいものをご提案をいただく会を設けたい。この策定委員会で受け取り、検討し、素案にまとめたものを区民に聞くような場を設けて、委員会の中で決定していきたい。

- ・ 地区別懇談会では1期のメンバーと2期のメンバーは同じでなければならないか。

(事務局)

各地区でももう少し広げた方がいいのではないかという意見もある。それはご相談しながらメンバーを増やしていく。

- ・ 地区別計画について共通項が必要。この場で全体計画との関連性を明らかにしていく。枠を定義していただいて、地区で話し合われたことを落とし込んでいく。そこに入らないものがその地区固有のものとしてだしていただく。

→次回以降、具体的な内容とあわせ、構成立てについても改めて検討していくこととした。

5 その他

第4回委員会の日程について

→平成21年7月27日(月) 13:30～ とした。

6 閉会